

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、発生予察特殊報第5号を発表しましたので送付します。

## 特 殊 報

令和5年度（2023年度）発生予察特殊報第5号

令和6年（2024年）1月30日  
熊本県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 クロテンコナカイガラムシ
- 2 学 名 *Phenacoccus solenopsis* Tinsley
- 3 発生作物 ピーマン（パプリカ）、スイカ
- 4 発生確認の経過  
令和5年（2023年）8月、県内のパプリカ栽培ほ場において、コナカイガラムシ類が発生した。本虫を採集し、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未確認であったクロテンコナカイガラムシであることが確認された。その後、10月にはスイカ栽培ほ場においても本虫の寄生が確認された。
- 5 国内の発生状況  
平成21年（2009年）に沖縄県で発生が初めて確認された後、これまでに20府県で発生が確認されている。九州では、既に全県で発生が確認されている。
- 6 形態及び生態等の特徴
  - （1）形態  
雌成虫は楕円形で体長は3～5mm程度である。コナカイガラムシ類は背面に白色のロウ質物を分泌するため全体としては白く見えるが、本虫は2対の黒斑が見られる（図1）。この黒斑は2齢幼虫以降に見られ、1齢幼虫には見られない。
  - （2）生態  
雌成虫は綿状のロウ質物の卵のう内に平均350個程度産卵する。ふ化後、1齢幼虫は数日間卵のう内で過ごした後、摂食のために歩いて分散する。雌は羽化せず翅のない成虫になる。雄は蛹を経て1対の翅を持つ成虫となる。また、本虫は交尾後産卵する有性生殖と雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。また、本種の単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。

### (3) 被害

ウリ科、ナス科など66科の植物種に寄生の報告があり、広食性である。国内ではトマト、ナス、ピーマン、キクなどで被害の発生が確認されている。本虫は寄主植物の葉、茎、果実などを吸汁加害することで植物体を衰弱させる。また、分泌した甘露（糖分を多く含む排泄物）によって、表面にすす病が発生し、果実の汚れ（品質低下）や光合成の阻害を引き起こす。

## 7 防除対策

- (1) パプリカについてはピーマンのコナカイガラムシ類に登録のある薬剤を用いて防除を行う。スイカについては現在、登録農薬はない。
- (2) ほ場内での早期発見に努め、発生が認められた場合は寄生部位を除去するか、圧殺するなどして適切に処分する。
- (3) 雑草は本虫の増殖源となり得るため、ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- (4) 施設栽培の場合は、栽培終了後に他の微小害虫防除も兼ねてハウス密閉処理を行う。



図1 クロテンコナカイガラムシ雌成虫



図2 パプリカの葉に寄生するクロテンコナカイガラムシ

熊本県病虫害防除所  
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)  
担当：岡島、福岡  
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493